



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 天界 1927, 7(73)

ISSUE DATE:

1927-03-25

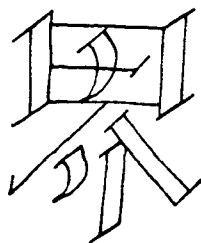
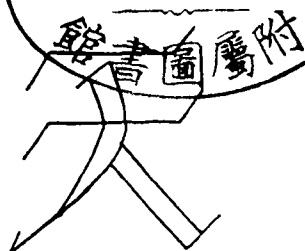
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161101>

RIGHT:

京都帝國大學
 No. 73 (Vol. VII.) THE HEAVENS
 — 2 10.2 1 —

April 1927



第七十三號

(第七卷)

昭和二年四月號



京都帝國大學天文臺內

天文同好會

目 次

變光星發見のあと	京大教授理學博士 山 本 一 清	123
銀河の彼方	ハーグート天文臺 W. J. ライテン	137
四月の天空(星座案内)		144
ニウトン傳(2)	京大教授理學博士 山 本 一 清	147
金星の觀望好期	山 本 一 清	153
ダブルとバイナリー	會 員 小 槇 孝 二 郎	155
雜報と消息		169—172
○ハセイ教授逝ダ……○ドナーチミ百年記念……○米國より日食遠征隊行く……		
○ロンドン理學博物館の天文部開設……○キンネケ彗星來らん……○ハーグード		
學院天文臺の新出張所……○新發見彗星つ		
觀測部より		173

寫 眞 版

アンドロメダ大星雲の中央部(136); ニウTONの像(146); エザンバラ, 國立天文臺……
世界天文臺巡り(其五)(153); ヘリクレス座の球狀星團(168)。

Contents of THE HEAVENS No. 73.....Edited by Toshima Araki

Prof. I. Yamamoto, History of the discovery of variable stars	123
Dr. W. J. Luyten, Beyond the Milky Way	137
Heavens of April	144
Prof. I. Yamamoto, The Life of Newton (2)	147
Good season for Venus-observation	153
Mr. K. Komaki, Double stars and Einary stars	155
Miscellaneous Notes	169
Letters and Reports	173

Illustrations:

Central portion of the Antromeda Nebula (136); Isaac Newton (146); National Observatory, Edinburgh (153); The Globular Cluster in Hercules (168).

Published by The Society of Astronomical Friends,
Kyoto University Observatory, Japan.



ジャン・パウロを
言ふ人が次の様な
意味の事を何かに
書いて居たのを讀
んだ事がある。「四
人の僧侶が、大自
然の巨なる祭壇の
前に立つてゐる。祭壇は山嶽で
ある。『冬』と言ふ

僧侶は白雪皚々たる衣をまき、収穫の『秋』
はその穢々たる五穀を神に捧げつい、そして
人の子はそれを神から貰ふ事が出来る。炎熱
の壯者『夏』は、神に捧げむと、夜までも働
きながら、そして若き『春』は白い花の晴衣を
着て、恰も幼兒のやうに、花や蕾を祭壇の周
りに飾る。そして『春』が祈るのを聞く時に、
一切のものは共に祈る。——然り、人類にさ
つても青春は最も美しき僧侶である。」と言ふ
やうな事を書いてゐるが、自然にさつても、人
間にさつても最も美しい春は來た。

「春なれや、四月たちけり」とか「おい、春よ
春よ、お前はまた吾々の世界を訪れた」とか歌
ひたくなる春である。水涸れし曠野の冬の
小川にも、春來れば、野英の花の咲く如く、も
の凍る冬に閉されてゐた萬物の心は芽ぐみ、
花開く、野も、川も、山も海も、吹く風も、
行く雲も、そして星々も、宇宙の深奥も、人
々の心も靈も、あのゴチックの部屋で書籍や
器械の中に埋もれて、「一體此の世界の奥の奥
で統べてゐるのは何か、それが知りたい。そ
こで働いてゐる一切の力、一切の種子は何か、
それが見たい」と苦惱した哲學者フアウスト
すらも春の夕への丘の上に立つてはセンチメ

ンタルな惑にうたれて「あの縁にかこまれた
百姓家が、夕日の光を受けてかがやいてゐる
のを御覽、日は段々おぼつて逃げる。けふ一
日ももう暮れるのか、日はあそこを驅つて行
つて新しい生活を促すのだ。己の此の體に羽
が生えて、あの跡をどこまでも追つて行かれ
たら好いがなあ。そうしたら永遠な夕映の中
に靜かな世界が脚下に横ばり、高い丘々は紅
に燃え、谷は皆な靜まり返つて、白銀の小川
が黄金の江に流れ入るのが見えやうに……」

てなことを言つてゐるではないか。雪霜の冬
は嚴肅な理性にも譬えられやう。仲々近き難
い感じもする。然し、春さしなれば、近き難
き眞理の枯木にも「趣味」の芽が萌え出でる。
冬の夜空の寒星をみては、或は近き難き嚴肅
さを覺えて、ひざまづくであらうが、やわら
かな春の夜空の星々は、飛びあがつてまじり
たくなるだらう。フアウストのやうに「おゝ此
の體に羽があつたら」と叫ぶだらう。春の自然
は人々を眞理に親しめる。

近頃は同好會の讀者諸君の知識が非常に高
上した。もう立派な一人前の専門家としての
知識を有する人達が澤山出來て來た。近頃所
謂古參會員諸君(好き意味で)から多くの有益
な原稿や翻譯を惠與して下さる事が非常に多
くなつた。非常によろこばしき事として編輯
同人はよろこんでゐる。今後とも、自信ある諸
君は、ごしごし、有益なまた趣味にみちた原
稿をお送り下さる事を希望する。東京の會員
淺野君からハーシェル之光學器械の研究に關
する翻譯を送つて戴いたが、編輯の關係上六
七月號から連載する事に。茲に淺野君に
對して感謝の意を表すると共に、讀者諸君へ
もお知らせしておく。

天 文 同 好 會

本 部 京都帝國大學理學部 天文臺
事務所 京都市三條青年會館内竹内 忠治
同志社支部 京都市同志社大學内飯 義 壽
京都小學教員支部府立師範附屬 垂井増太郎
中京支部 京都市錦小路油小路東青地喜代藏
三高支部 京都市第三高等學校 石橋 榮達
大阪支部西區安土町二丁目船場小學校内海茂
紀伊支部 和歌山縣有田郡金屋 小嶺孝二郎
甲南支部 兵庫縣尼崎小學校 村山 辨次
神戸支部 神戸市生田町四丁目 森下 勤次郎
岡山支部 岡山市門町2 水野 千里
美作支部 岡山縣津山町山下96 森本 慶三
高松支部 高松市宮脇町馬場通 田中 朝夫
廣島支部 廣島市研屋町51 熊野 德一
山口支部 吉敷郡吉敷小學校 蕨藤 一郎
下關支部下關市丸山町梅光女學院廣津 藤吉
福岡支部 福岡市土手町19 柳橋 陽吉
熊本支部 縣立工業學校 山本 齊
大牟田支部福岡縣大牟田市龜甲町古賀 和吉

名古屋支部 東區千種町高見37 濱 野 眞
横濱支部 横濱基督教青年會内 海老澤 康
東京支部府下駒澤町上馬引澤143 五藤 齊三
上田支部 長野縣上田市木町 宮島善一郎
長野支部長野市長野小學校本部 黒君 魁一郎
高水支部長野縣上高井郡須坂小學校宮川周治
松本支部長野縣松本市筑摩部小學校上條清人
諏訪支部 長野縣上諏訪中學校 三澤 勝衛
仙臺支部 仙臺第二高等學校 吉井 正敏
札幌支部 札幌北六條西十一丁 米田 勝彦
小樽支部 小樽市北海商業學校 新谷 英一
滿洲支部 奉天葵町11の8の2 西岡 永太郎
大連支部 大連市大廣場小學校 石川 龜治
朝鮮支部 京城芳山町4 大山 高正
臺灣支部 臺北商業學校 見 元 了
上海支部上海崑崙山路義豐里211 森 義 清
北米支部 617 Maltman Ave., Los Angeles, Cal., U. S. A. 高岡 今平

天 界 第七十三號 昭和二年三月二十四日印刷 定價 金五十錢 郵税金壹錢
昭和二年三月二十五日發行

編輯兼發行者 京都帝國大學天文臺內(振替貯金口座大阪 56765)

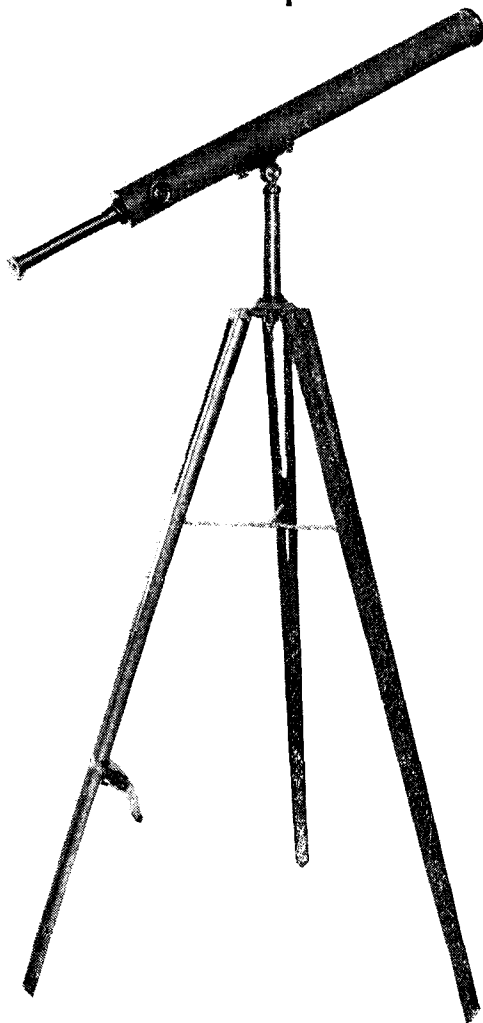
天 文 同 好 會 (代表者 山本一清)
印刷所 京都市下京區西洞院通七條南入 内外出版株式會社
印刷所 京都市下京區北小路通新町西入 須磨 勘 兵 衛
發 掘 所 東京市京橋區銀座尾張町二丁目 警 醒 社

Ottway's 3-inch Standard Astronomical Telescope

京都天文臺御推薦品

英國オットウエイ會社特製

「三吋」天體望遠鏡



定價金貳百五拾圓也

天體用接眼レンズ七十倍
地上用接眼レンズ四十倍
太陽觀測用サンガラス
美麗なる箱付き

但し送料荷造費は實費頂きます
學校用には輸入税免除の手續をいたします

特 徴

- 一、サンガラスを添付しあるを以て太陽の微細なる構造白紋等は明瞭に觀測が出来ます。
- 二、土星の環及木星の衛星等完全に觀測が出来ます。
- 三、地上用接眼レンズは十五呎乃至二十呎の距離は手に取る如く見る事が出来ます。
- 四、三脚臺は取外しが自由でボデーは美麗な箱に收める事が出来ますから至極携帯に便利です。
- 五、ボデーは美麗高尚なるエナメル塗ですから永久使用するも汚損の憂がありません。

日本代表

近江セールズ

株式會社

近江八幡町

電話二五七

出張所

東京市本郷區元町壹丁目一

文化アパートメント内

電話小七五三六

大阪市土佐堀通壹丁目

大同生命ビルディング七階

電話土五三八四